

平成 27 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに關し、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	神道文化学部
事 業 名	アンケートの実施の簡便化による授業運営、学部運営の向上・改善化プログラム
平成 27 年度実務担当者名	遠藤 潤
事 業 の 概 要	
【計画性】当初計画通りに事業を推進できたか？（いずれかにチェック）	
<input type="checkbox"/> 計画通りであった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね計画通りであった <input type="checkbox"/> あまり計画通りではなかった <input type="checkbox"/> 計画通りではなかった	
（以下、 <u>本年度の推進事業の概要</u> について、年初「申請書」の「内容」「目的」「計画」、及び前記【計画性】の自己評価、さらに別添の「経費執行表」における予算の執行結果に照らして記入してください。）	
<p>この事業の目的は、卒業延期率の悪化や休・退学者数に端的に表れるような修学状況を改善するための施策にある。学生に対するきめ細やかなアンケートとその内容にもとづき、カリキュラム改善をはじめ学部として可能な対応をしていくことによって、就学状況は改善していくと想定される。この事業では特にデータ把握と分析の部分を中心的な対象としている。本学作成の『リアル白書』とともに、学部独自でも学生の声を聞き、新入生には神道に関する基礎学力を診断し、かつ1年後の到達度をはかることなど、それらをデータ化して、専任教員がそれらを共有することで、授業をはじめ学生の指導や対応等の改善を引き続き計る。昨年度同様外部業者による大量データの分析依頼とそれにもとづく細かなデータ分析を学部独自で行い、客観的な現状把握と問題点を明らかにしたうえで、その成果を学部教務委員会や教授会で公表し検討する。このデータ作成と分析により、入試別に志向性や習熟度をはかることができ、より細かな教育を提供するための準備資料を蓄積することができる。事務処理の円滑化をはかるためにも、株式会社（情報基盤開発）に学部データの分析を依頼することも明記したうえで申請し、承認されている。</p> <p>この計画にもとづき、学部独自のアンケートと学力診断を実施した。アンケートとしては、卒業生アンケート（平成 26 年度卒業生対象）、新入生アンケート（平成 27 年度新入生対象）、オリエンテーションアンケート（同左）、奉職・就職意識アンケート（2 年生対象）を実施した。また、神道に関する基礎学力診断を、1 年生を対象として4月と1月の2期に実施し、100 問の設問それぞれの解答状況と大学 1 年生での神道・神社関係の学修の進展状況をはかった。これらのデータについては、情報基盤開発に依頼し、同社の方法によってアンケート項目選定からアンケート用紙作成までの時間を短縮するとともに、集計を行ってもらった。さらに、この集計結果について、作業協力者がそれを学部でのニーズにあわせて再整理と分析をほどこし、教務委員を中心とした学部教員は分析と傾向を把握した。さらに、学部教授会でも随時成果の中間報告を行った。アンケートの集計費用が、通常の業者の料金よりは相当安価で済んだため、予算執行において、当該費目につき予算額を大きく下回る結果となったが、計画の執行上は問題がなかったと考えている。</p>	